

宇都宮市立御幸小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動の充実	・児童のよりよい考えや表現を生み出すようにするための教師の支援・指導の工夫 ・考え方や理由を筋道立てて説明する学習活動の設定	国語「書くこと」の領域において、市の平均より1.6ポイント上回っている。特に、「意見や理由を明確にし、段落構成を考え、指定された長さで文章を書く」設問では、正答率が高く、無回答率も低い。
家庭学習の推進と習慣化	・「家庭学習のすすめ」や「家庭学習カード」の活用 ・自主学習ノートを用いた自主学習の奨励 ・学年だよりや学級懇談会などで、家庭学習の意義を保護者に伝え、家庭と連携しながら習慣化を図る。	「宿題はきちんとやっている」、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に、肯定的に回答した児童の割合が90%を超えており、ほとんどの学年で市の平均を上回っている。しかし、「自分で計画を立てて取り組む」「テストで間違えた問題を解き直している」では、肯定的回答が低く、市の平均を下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

- ・宮っ子学カステップアップシートや小テスト、AIDリルを計画的に実施し、朝の学習の時間や宿題等で補充的な学習を繰り返して行うことにより、漢字の読み・書き、四則計算などの基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- ・日々の授業や教育活動において、目的に応じた話し合い活動、言語活動を充実させていく。特に、相手の話をよく聞き、自分の思いや考えを伝えるなどの「話す・聞く態度」の指導を行うとともに、友達と伝え合う楽しさや学び合うよさを実感できる学習活動を工夫して行うことにより、児童一人一人が自分の思いや考えを進んで表現し、考えを広げ深められるようにする。
- ・児童が「学ぶよさや楽しさ」ができる、分かる喜びを実感できる授業の実現のために、宇都宮モデル（はつきり！じゅくり！すつきり！）に即した授業の実践、学習意欲を喚起する課題提示の工夫、自力解決を促す教材・教具の開発、一人一台端末等のICTの効果的な活用などについて研修を重ね、授業の質的向上を図っていく。
- ・児童一人一人が自分の考えをもち、言葉や文章で表現できるように、発問・指示の仕方やワークシート等を工夫したり、考え方や理由を筋道立てて説明する学習活動を設定したりするなど、支援・指導の充実を図る。また、朝の学習の「書く活動」の時間において、視写・作文・日記等の指導を発達段階に応じて系統的に行っていくことで、文章表現力を身に付けられるようにする。
- ・学年の発達段階に合わせた「家庭学習のすすめ」や「家庭学習カード」を活用し、児童が主体的かつ計画的に家庭学習に取り組めるよう指導を工夫していく。また、学年だよりや年度初めの懇談会等で、家庭学習の取り組み方について保護者に理解と協力を求め、家庭と連携をとりながら習慣化を図っていく。